

和名倉山(白石山)2036m

記：イガ

期 日：11月4日(金)～5日(土) 晴れ

コース：①4日 自宅 7:30—上野原—鶴峠—丹波—オイラン淵—三ノ瀬・民宿みはらし P12:25/45…将監小屋 14:20 (宿泊)

②5日 将監小屋 5:10…将監峠 5:20…山ノ神土 5:38/45…西仙波 6:58…東仙波 7:14…川又分岐 8:40…二瀬分岐 8:52…和名倉山 9:06/13 …山頂下ランチ 9:15/40…二瀬分岐 9:52…東仙波 11:15/23…山ノ神土 12:36/40…将監峠 12:55…将監小屋 13:02/35…三ノ瀬・民宿みはらし P14:30—丹波山温泉・のめこい湯 入浴 16:40—氷川—梅郷—五日市—城山—相模原—自宅 20:00

その他：将監小屋宿泊 6000円(夕食のみ)、丹波山のめこい温泉 600円、駐車場 1000円/1泊
距離往路 110km、復路 113km、同行者：1名



一の瀬高原 民宿みはらし駐車場に車を止めさせていただく。(要予約)

沢山の登山者は早稲田の学生さんの団体



ここから 100m ほどで未舗装の林道へ



牛王院下(ごおういんした)分岐 まだ 90 分の林道歩きがあります。

将監小屋まで約 5 km 未舗装の林道が続きますが、一般車両進入×です。

単調な歩きも見ごろの紅葉のため、それほど苦になりません。しかし、長丁場の帰りは辛くなりそうです。



林道上部



小屋手前の峠への分岐



左写真の分岐を 200m ほど進むとこの風景が広がります。



豊富な水場ワサビが大きく育っていました！ 10年ほどとか！…十分大きくなっているようです。



将監小屋内部

入口には大きなストーブがあり、陽が暮れる頃ようやく火が入る。昨年小屋主が遭難したため、今は息子さんが勤めの合間に小屋に入っているとのこと、不在のこともあるそうです。宿泊者多数の場合食事は出ないこともあるそうです。要注意！片隅に積んであるのが寝具です。



左：将監小屋テント場 昨晩は沢山のテントがありました。ここは天泊が多く、張りきれないときもあるそうです。一人テントが多い！

下：小屋から10分登った峠です。これは帰りに撮ったものです。中央遠く見えるのは大菩薩黒岳です。

右：将監峠
奥秩父の縦走路
向うへ行くと雲取山です。
出発時は夜明け前だったので真っ暗でした。



縦走路分岐の山ノ神土（ヤマノカンド）からリンノ峰へ、竜喰山は雲がかかっています。

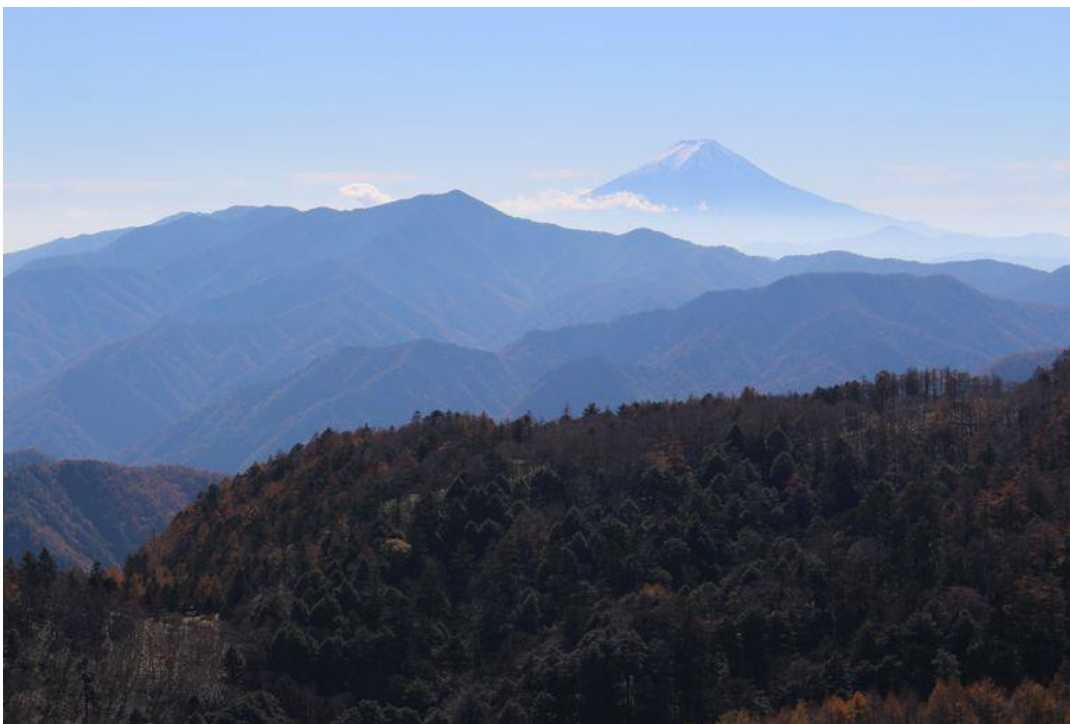




リンノ峰 右奥雲の下を歩いてきました。
ようやく富士山の姿も見えるようになりました。

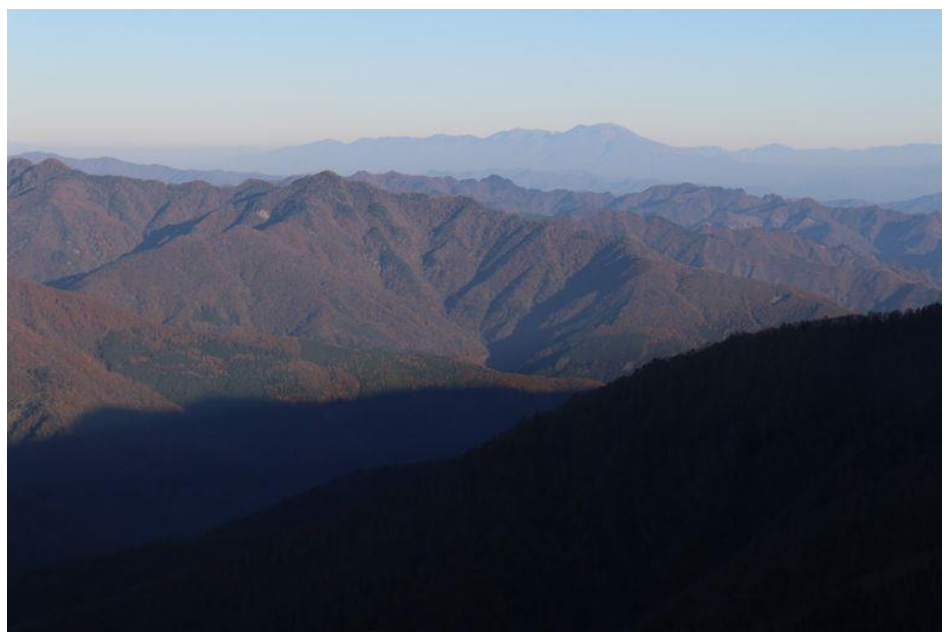


山ノ神土分岐からは腰近くの笹を掻き分けるような道でしたが、それを抜けるとこのような明瞭な道となります。



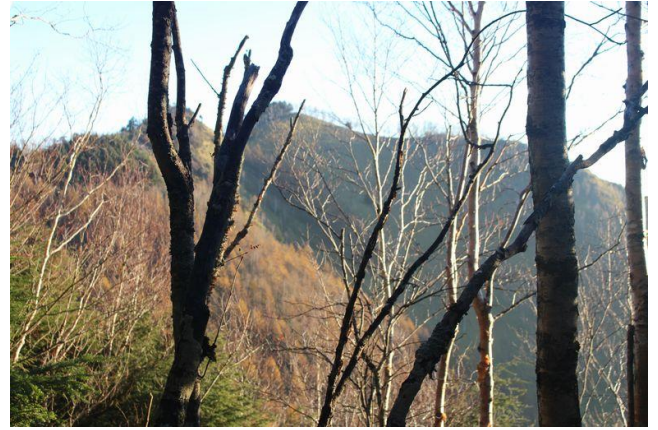
西仙波（前）付近から大菩薩嶺と富士山、富士山の前の長い尾根は、丸川峠から柳沢峠へ続く尾根です。その前に黒川鶏冠山が見えます。

右：浅間山遠望
南アルプス聖岳や北アルプス鹿島槍ヶ岳が確認できました。
この日は風が強く、稜線を歩いていると飛ばされるようでした。気温も5度、体感温度はかなり低いように感じました。





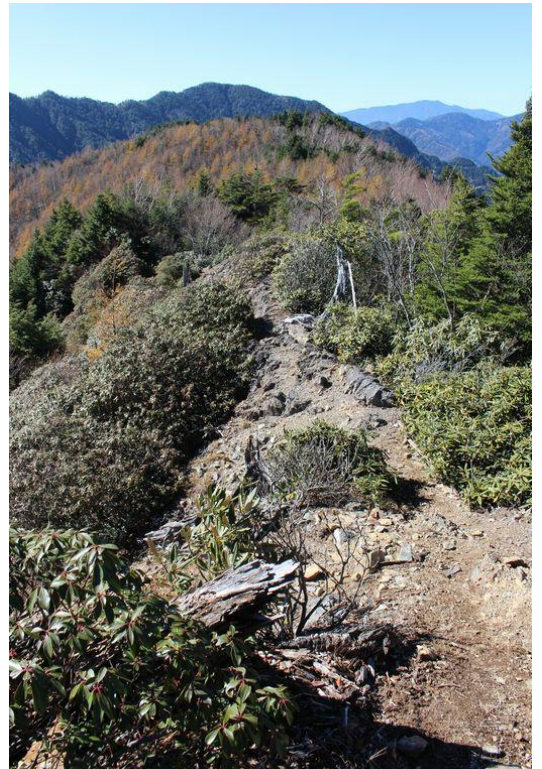
仙波付近の岩の道 風に飛ばされそうでした！



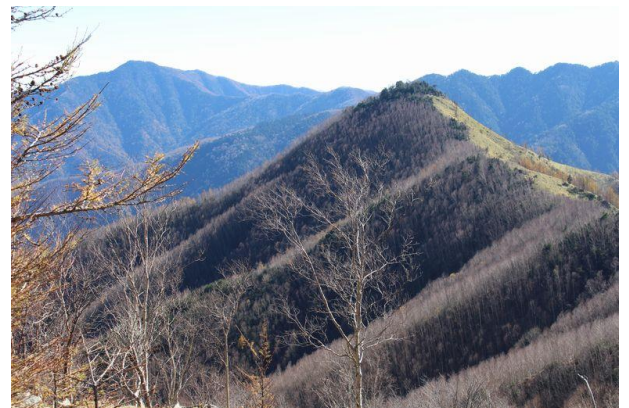
西、東仙波が見えるようになりました。あれを越えて行きますが、まだまだ目的の山は先です。



西仙波 1983mを下ります。その昔は大洞から滝川へ下る道がここを横断していたというが、その踏み跡は確認できなかった。



東仙波（奥）ここでほぼ直角（北へ）に曲がりますが、そのまま直進する間違いがあるようです。この日も先行者が間違っていました。



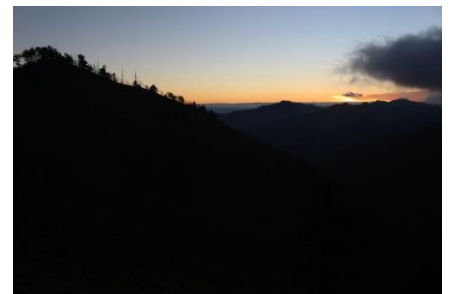
東仙波（奥）から東に延びるカバアノ頭、その向こうに見える尾根は雲取から三峰への尾根です。



西仙波付近より見た目的の和名倉山 大きな山容、まだまだ2時間あります。



甲武信岳や金峰山方面



シャク
ナゲの
トンネ
ルや樹
林の道
が続き
ます。



八百平付近の岩場、道はこの脇を通ります。
笹原やコメツガの原生林が続きます。

下：いたるところにある林業の跡、昭和20年から30年代に盛んに行われたこの一帯の伐採、70年ほど経過し回復傾向にあるとのことだが、この残がいは消えそうにない。





吹上ノ頭を下る

吹上付近から来た方向
の東仙波を見る。
奥の山並は雲取山（右
端）から三峰への尾根で
す。
このころになってよう
やく風も納まりました。



奥秩父の唐
松尾山から
笠取山の山
並です。その
向こう側が
多摩川の源
流、こちら側
は荒川の源
流域です。



川又分岐ヒルメシ尾根を經由して川又への道がある。しかし、荒れているそうです。

二瀬へ（二瀬尾根）の分岐、秩父へ下るにはこれを利用している。秩父湖まで4時間の下り、交通もバス便が少ないので時間調整が必要でしょう。私達はここを右へ、山頂まで20分です。



千代蔵の休ン場付近、樹林を抜けてカラマツの幼木の紅葉の綺麗なところです。その昔、千代蔵という猟師が火事を起こしたということから名前が付いたということです。



ようやくたどりついた和名倉山
50数年の念願！でした。
先輩のFさんへ心の中で報告しました。



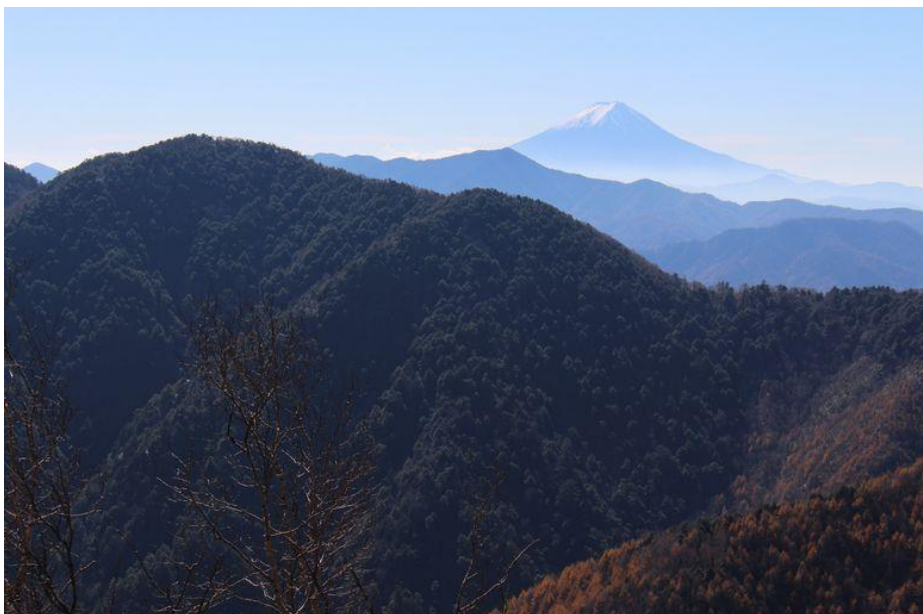
和名倉山 2036m 二等三角点



深い樹林の山頂、展望は無い。
倒木の中東へ（仁田小屋尾根）下る道がある。



帰りの山並



竜喰山（手前）
と大菩薩、富士
山



東仙波からカバアノ頭への斜面、
この右下の斜面に熊の姿を見る。
ササの中に頭を突っ込み盛んに何
かを食べているようだった。



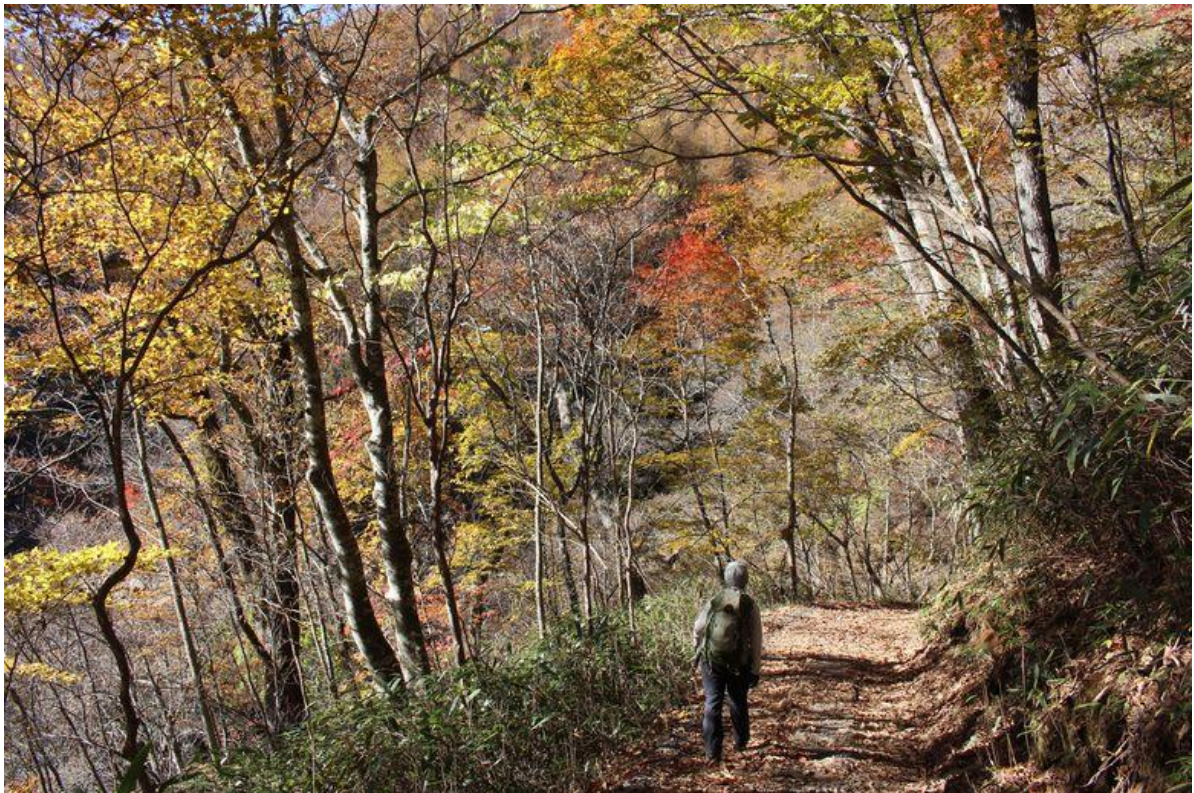
ようやく山ノ神土へ
戻りました。
まだ2時間近くの行
程があります。



将監小屋付近の紅葉 花に時期にまた来てくださいと言われました。



雲の中は唐松尾山と笠取山



小屋から一の瀬への林道 5km1 時間 30 分の下りも紅葉に慰められながらの歩きでした。

山を始めたころ、雲取山への山行時に眺めた大きな山容に、いつかは行ってみようという気持ちと、行程がただ長いだけなのと、展望も望めないように聞いていたため、なかなか機会がなかった。体力の低下が著しい最近、この機会に行かないと登らずの山となるため、1泊2日の行程での山行となった。実際行ってみると展望は申し分なく、奥深い山の味わいがあり静かな山を楽しめた。森林伐採の残骸が残されているのは残念だが、それも産業遺産と思えば仕方ないことなのかなと思う。良い山でしたが、CT 往復 11 時間はいささかハードでした。